

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	10	0	11	6	14	25	32	4	19	総調査ほ場数: 64か所 総調査株数: 1,600株 (調査株数 25株, 調査花数 100花)
	本年平均値	15.6	0.0	17.2	9.4	21.9	39.1	50.0	6.3	29.7	
	平年値	6.0	0.1	27.2	7.2	15.8	30.2	31.8	9.2	33.1	
	(本年平均値/平年値) × 100	260.0	0.0	63.2	130.6	138.6	129.5	157.2	68.5	89.7	
株率 (%)	発生程度	多	少	平年並	平年並	平年並	平年並	やや多	平年並	平年並	○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病は例年より多くのほ場で発生がみられています。 ・萎黄病は平年と比べやや多い状況です。 ・うどんこ病の発生は平年並みです。 ・ハダニ類の発生は、平年並みですが、ほ場間で発生量の差が大きい傾向があります。 ・アザミウマ類の発生は、平年並みですが、一部多発ほ場が見受けられます。
	発生株数	8	0	58	7	30	180	73	4	143	
	本年平均値	0.5	0.0	3.6	0.4	1.9	11.3	4.6	0.3	2.2	
	平年値	0.2	0.0	5.7	0.2	3.2	8.9	3.3	0.6	1.9	
概 評	(本年平均値/平年値) × 100	250.0	-	63.2	200.0	59.4	127.0	139.4	50.0	115.8	
	発生程度	多	少	平年並	多	やや少	平年並	平年並	やや少	平年並	

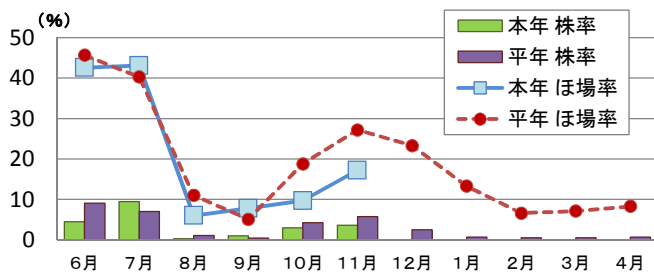


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

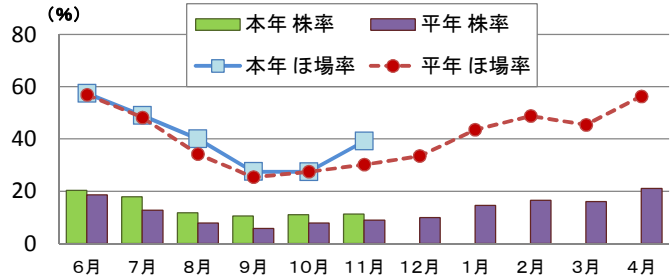


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

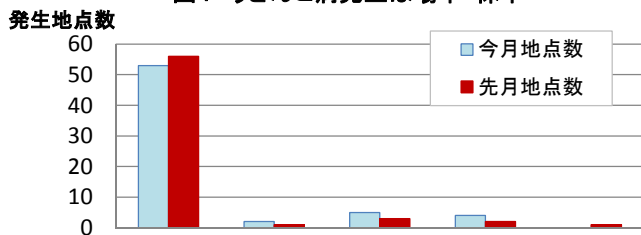


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

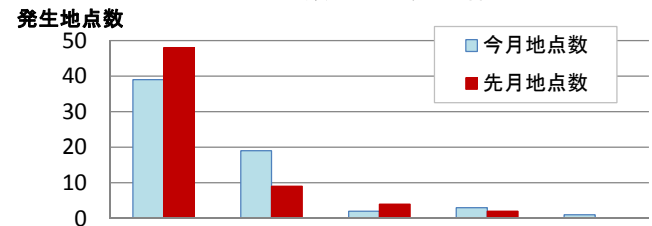


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

### ○うどんこ病対策

- ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・予防を主体にアフェットフロアブルやガッテン乳剤等で防除する。
- ・保温開始後は硫黄粒剤でくん煙する。
- \* 硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、長時間の使用は避ける。

### ○ハダニ対策

- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに薬剤抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
- ・天敵を放飼する前に、必ず一度防除をしてハダニの密度を下げる。なお、薬剤の使用にあたっては、天敵に影響の小さい剤を選択する。



写真1 ナミハダニ雌成虫と卵

### ○今月の技術情報(技術指導班)○ (11月)

- ・現在、保温開始となり、収穫出荷も順調に行われています。
- ・しかし、育苗期から炭疽病の発生が見られ、保温開始後も萎れや枯死株が見られますので、見つけ次第除去しましょう。
- ・また、引き続きハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類の発生が多めになっています。これらの害虫の防除は収穫が本格化する前に徹底して行い、被害の拡大を防いで下さい。特に、天敵を導入するほ場では、導入前の防除を徹底するとともに、使用する農薬については天敵に影響の小さい薬剤を使用するようにしましょう。
- ・今後は気温の低下や降雨等により低温多湿状態となりやすく、灰色かび病等の発生も懸念されます。ハウス内の適温確保、湿度上昇を防止し、適切な管理を行って下さい。